

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2023年	10月	29日	(記入者) 河添正雄	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	仲
	灰藤	東辻	本井		
取材対象先	下市町：願行寺の本堂 鐘楼				

所在地	吉野郡下市町下市2950				
所有者(取材対応者)名	願行寺(願行寺住職夫人 ***様)		連絡先 0747-52-2344 (願行寺)		
	(個人情報守秘)		PCアドレス		
取材申込	申込先・行政名など：下市町教育委員会				
市町村指定文化財	彫刻	軀			
	建造物	2棟	願行寺本堂 鐘楼 2棟とも1975(昭和50)年11月1日指定		
文化財指定理由	本堂は天正7~11(1579~1583)年、鐘楼は永禄10(1567)年頃と室町末期の古風形式を多く留める本格真宗寺院の数少ない貴重な建造物である。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	住職夫人のお話によると、各お堂に消火器・火災報知器が設置され、年1回消防が査察に来るとの事。本堂北側廊下奥に、消火器と火災報知機を現認した。鐘楼周辺には消火器などは見当たらなかった。	特になし。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	鹿やイタチ、猪などが侵入して来るため、フェンスを張って防御しているとのことである。	お寺の裏手(西側)は山が迫っているため、今後も侵入のないことを願いたい。
保存~継承 ^ 苦勞と 今後の課題 と対策	20~30年を目途に、各お堂を順次修理しているが、公的援助は得られないので、全て門徒さんたちの浄財に頼っている。また蓮如上人命日5月14日の法要や、11月1日の親鸞上人報恩講法要の前には、門徒さん達が境内の清掃をしてくれるが、門徒さんの数も徐々に減っており、これが懸念材料となっている。また「飯貝御坊」とも呼ばれる本善寺とは、以前は交流があり寺僧の行き来も有ったが、世代が代わり、今は交流が無くなっているとの事だった。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

檀家や門徒のいない寺院では、文化財の維持管理に手が回らないケースが多い中で、願行寺では門徒さんたちの協力もあり、現時点では問題無いと思われる。しかしながら門徒さんの数も減っており(特に若い人)、公的支援が得られない中でいかに維持管理していくかが、今後の課題と思われる。昨今よく行われるクラウドファンディングなども検討する必要が出てくるのではないだろうか。

市町村指定文化財取材票<裏>①

取材日	2023年	10月	29日	(記入者) 河添正雄	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	仲
	灰藤	東辻	本井		
取材対象先	下市町：願行寺の本堂 鐘楼				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名 願行寺 本堂	
文化財 (正面写真)	文化財 (本堂北側の庭園、県指定文化財)
	
文化財 (本堂の扉を開いた状態)	本堂横にある蓮如上人像
	
文化財の由緒などを記入	所有社寺や地域 (廃寺等) の歴史や特徴を記入
<p>浄土真宗本願寺派の下市御坊で、至心山願行寺と呼ばれる。本願寺第八世蓮如上人が、吉野の要地伝道の本拠として開基されたと伝わる。本善寺「飯貝御坊」とともに、吉野83カ寺をまとめ、「下市御坊」と称した。その本堂は、本格的な浄土真宗寺院の形式をもつ、数少ない建造物である。</p>	<p>願行寺のある下市町は、平安時代のころから吉野の入り口として栄え、市も立つようになる。国内最初の商業手形「下市札」が発行されるなど、吉野地方の主要商業地として栄えた。また、歌舞伎「義経千本桜すし屋の段」の舞台として知られるすし屋は、現在も続いている。広橋梅林や丹生川上神社(下社)もよく知られている。</p>

市町村指定文化財取材票《裏》②

取材日	2023年	10月	29日	(記入者) 河添正雄	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	仲
	灰藤	東辻	本井		
取材対象先	下市町：願行寺の本堂 鐘楼				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名 願行寺 鐘楼

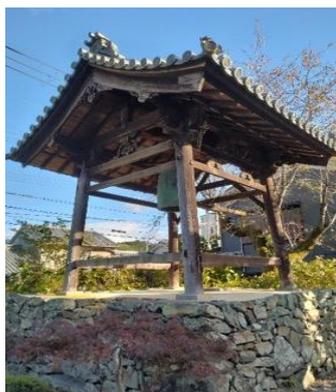
文化財 (正面写真)



文化財 (角度を変えて、写真)



文化財 (安置状態の全体写真)



気になる部位の写真(手前柱の根継ぎ)



文化財の由緒などを記入

鐘楼に吊るされる梵鐘も町指定文化財で、当地の竜王城主であった堀内守俊が、永禄10(1567)年に寄進した。大和国の中で永禄在銘の古鐘では唯一のもの。鐘楼の建立も同年頃とされる。

願行寺の文化財 (下市町教育委員会の説明板)

